

今が旬の106、これから盛り上がる206のモディファイを大特集! 参加型モータースポーツもますます盛況!

ティポ9月号増刊 第11巻第14号 平成12年9月1日発行

スポルティング・ティポVol.4

レーシングスピリット全開場能マガジン

ティポ9月号増刊

スポルティングティポ
September 2000 Vol.4

Sporting

PLEASURE
PEUGEOT
モディファイ・ブジョー
最前線

Motor Sport
Car-magazine

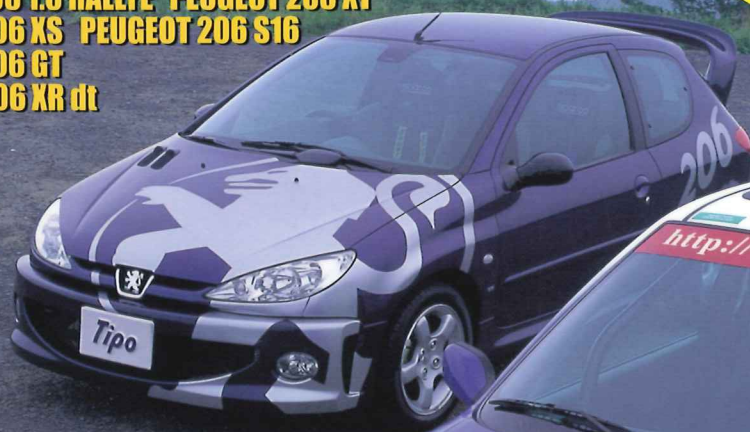
Tipó

PLEASURE PEUGEOT
ちょっとチューンからピリ辛まで
ブジョーのチューニング最新事情満載!

モディファイ・ブジョー最前線

PEUGEOT 106 S16 PEUGEOT 106 1.3 RALLYE
PEUGEOT 106 1.6 RALLYE PEUGEOT 206 XT
PEUGEOT 206 XS PEUGEOT 206 S16
PEUGEOT 206 GT
PEUGEOT 306 KR dt

名勝負列伝
1970 12 hours of Sebring



JOIN BATTLE!
CLUB
SPORTING
参加型モータースポーツ・ガイド

Lotus Elise Cup
Alfa Romeo Challenge
New Beetle Cup
Netz Cup
Idler's Meeting/e.t.c.

スポルティング・アイ
アルファ156ターボなど
興味津々のコンプリートカーに試乗!
Alfa 156 Novitec turbo
Alfa 155 Q4 boost up Version
Ford Puma
Caterham Super Seven 500R
Citroen SAXO Modified



Sporting eye

Competition Scene

過激度、期待以上。DTMが還ってきた!

DTM2000特集/WRCスーパー1600、2000年モデル

まさに羊の皮を被った狼に変身
ターボパワーで最速156の座を狙え!

もう少し刺激が欲しい!、もうちょっと速さが欲しい!と願う156オーナーはきつというはず。そんなオーナーは大注目の、ノヴィテックが作り上げた156ターボ、遂に日本上陸!

文= 森口将之
 text= Masayuki Moriguchi
 写真= 宮越孝政
 photo= Takamasa Miyakoshi
 取材協力= ノヴィテックジャパン
 special thanks= NOVITEC Japan
 (Tel: 03-3551-7980)
 designed by Katsumi Suzuki



**Alfa Romeo 156
 2.0 Twin Spark
 Turbo
 by NOVITEC**

**アルファロメオ156に残した
 ドイツ流チューニング**

前作155を完全に超える勢いで、日本でもヨーロッパでも大ヒットとなっているアルファ・ロメオ156。伝統とモダニズムを絶妙に調和させたボディを自にし、回すほどにドライバを挑発するエンジンを味わえば、それも当然と思える。

しかしそんなアルファ156も、絶対

的な加速性能はほとんどのレベル。とくに伝統の2.0 4気筒ツインカムを搭載するツインスパーク16Vは、5速MTを必死に操っても、強靱なタツシユは得られることはない。もちろんその代わり、吹け上りのスムーズさとサウンドの気持ち良さは文句の付けようがないのだが、「もう少し加速してくれればなあ」と思ってしまうのも事実だ。

でもこれからは、こんなことで満足する必要はないはず。3.0クラスの速さを備えたハイパー156が登場したからだ。

このウルマを手掛けたのは、ドイツのノヴィテック。もともとルーフに在籍していた2人のエンジニアが独立して始めた、フィアット/アルファ系を専門とするチューナーで、今やドイツではイタリア車のスペシャリストとして知らない人はいないほどの存在だ。

ノヴィテックが選んだハイパーアップの手法は、ターボを装着することだった。ただし彼らは、やみくもに速さだけを追い求めてはいないようだ。同じ2.0から得られたパワーとトルクは218ps/36.5kgm。ノーマルが155ps/19.1kgmだから、とくに2倍近くに上がったトルクには凄みを感じるが、逆にパワーは控えるにも思える。

そついでにはこのクルマ、外観もそんなに過激ではない。18インチのアルミホイールと205/40サイズのタイヤはたしかに目につくが、エアロパーツの類いは最小限だ。インテリアもさうで、エアバッグレスのmomosteering、アルミ製パーキングブレーキレバー、ペダルなどでドレスアップされているが、シートはノーマルで、ロールバーの類も

注目! オススメ! のポイント

- 注目の価格は500万円前後に落ち着く予定
- ターボユニットはコンプリートキットのみの販売となる
- 足周りまで専用チューニングが施される

Alfa Romeo 156 2.0 Twin Spark Turbo by NOVITEC



バツと見はノーマルと大きく変わらないが、実は手前下にタービンが装着されている。5600rpmで実にノーマル比63psアップの218psを発生。



注目のタービンは、日本では馴染みが薄い信頼性で定評のあるシュワイツァー製。最大ブースト圧は0.8kg/cm²。ノーマルより圧縮比は下げられる。



装着された2段スポイラーがノーマルとは一味違うことを主張する。あくまでの大人の雰囲気を残しているのがポイントだ。

DTMを彷彿させるマフラーにはノヴィテックのロゴ入り。音質はターボ車らしく低めなサウンドだ。



Tipo本誌でも馴染みの森口将之氏がインプレッション。完成度の高さに感心していた様子。



ホイールは18×8J (ET30)。ブレンボキャリパーがこのクルマの完成度を物語る。タイヤサイズは225/40R18。



さりげなく走り意識させるべく、ペダルカバーが装着される。

コクピットもほぼノーマル。ステアリングをエアバッグレスのmomoiに、サイドブレーキレバーが交換される。



TUNING MENU

- フロント (5万6000円) & サイド (6万8000円) & ルーフ (3万4000円) & リアスポイラー (4万5000円) ●専用2本出しマフラー (70φ、ステンレス製、14万5000円) ●ブレンボ4ポッドブレーキキット (32万5000円) ●専用チューニング車高調キット (24万5000円) ●タイヤN3/18インチホイール (スピードライン製、17インチから選択可、4万8000円〜) ●ペダルセット、ハンドブレーキレバー、ドアロックノブ他あり



リアサスペンションにも車高調が組み込まれる。ダンパー、スプリングともにノヴィテックオリジナルだ。



専用チューニングが施される足回り。ブレンボ4ポッドキャリパー&大径ローターでブレーキも強化。

備わっていない。こつした控えめな内外装は、実は中身をそのまま表現したものだ。ターボの立ち上がりは後付けらしからぬマナーの良さを誇る。決してドツカンではなく、3000rpmあたりからモリモリとトルクが沸き上がってくる感じだ。メーカーが手付けた同じ2リターボのクーベ・フィアットより穏やかなほどである。しかもこの3000rpm以上に回転を保つていけば、レスポンスは自然吸気並み。上もきれいに回る。サウンドは、全開ではオリジナルマフラーからターボらしい太い排気音が響くが、それ

以外ではアルファミュージックが届いてくる。

たしかに全開加速は、今となつては驚くほどではない。ランエボやインプレッサWRXなどには及ばず、かつてのランチア・デルタHFiンテグラーレくらいという感じがする。でもその代わり、アルファならではの心地よい吹け上がりやレスポンス、そしてサウンドがそのまま残っている。独特の楽しさは失わずに、高性能を手に入れているのだ。

足周りもそんなに固められていない。乗り心地は、タイヤが太くなった分荒れた路面ではバタつきを感じるが、外観から想像するよりはすつと快適。これならアシとしても充分使える。そしてコーナーでは、ステアリングの反応はそれほど過激ではなく、その後はロールの進み具合が分かる。ここでもアルファらしさが失われていないのだ。

それでいてこの156ターボ、コーナーでのグリッパレベルは明らかに上。立ち上がりでアクセルを全開にしてターボパワーを解き放つても、前輪はなかなか外側に滑り出さない。一方コーナー中にアクセルを閉じたりしても、リアがスライドしたりすることはない。タイヤの太さのおかげもあるが、それをうまく手なずけているという感じがした。

アルファの良さは、絶対的な速さよりも、レスポンスやサウンド、コーナーでのコントロール性など、感覚面の楽しさを重視しているところにある。ノヴィテックの156ターボは、それを殺さずに高性能を手に入れることに成功していた。ドイツ製といふことでアウトバーンスペシャル的な性格を予想したが、それはうれしい方向に外れたわけだ。ゲルマンも捨てたもんじゃない。